

研究のまとめ

研究主題「『社会に変革を起こす子ども』の育成」の下、1年次は副主題を「情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント」とし、研究を進めてきた（図1）。



社会に変革を起こす子ども

PLAN（計画）

DO（実行）

【情報を類型化する観点】

「単元・題材等で新たに扱う情報」「他者の考え」「教科等の学習経験」

「他教科等の学習経験」「学習外の生活経験（行事等）」「家庭での生活経験」

ACTION（改善）

CHECK（評価）

徳道	英語	体育	家庭	図画工作	音楽	総合生活	理科	算数	社会	国語
学習課題に対する考えを他者に伝えたり、質問をしたりして、 他者の学習課題に対する考えを多面的・多角的な考えにできる子ども	相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝えて、 相手の英語表現や伝え方を改善する子ども	動きの課題に応じた解決策を伝え、 仲間の動きを目標とする動きへと導くことができる子ども	自他が試行した方法についてよさや改善点を伝え、 他者の方法をよりよい生活の実現につながる方法にできる子ども	対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、 他者の造形活動を更新できる子ども	自らのイメージや音楽表現を基に、音や音楽から聴き取ったことと感じ取ったことを伝え、 他者の音楽表現の工夫を高められる子ども（表現領域） 他者の曲全体の聴き方を深められる子ども（鑑賞領域）	自他の関わり方を比べ、 他者の関わり方を人・もの・ことの特徴・よさを基にした関わり方にできる子ども	自分の考察の根拠となる観察、実験の結果を伝えて、 他者の考察を観察、実験の結果を基にした根拠の確かな考察にできるよう働きかける子ども	数量や図形についての課題に対する解決方法を筋道を立てて説明し、 簡潔性、明瞭性、一般性をもった解決方法へ導く子ども	自他の考えや根拠を比較して、見いだした社会的事象の特色、相互の関連、意味、社会への関わり方を伝え、 友達の考えや根拠を質的に向上できるように働きかける子ども	自他やテキストの言葉を基に友達の考えを受け止め、 対象と言葉、言葉と言葉との関係についての友達の考えを深める子ども

図1 本研究の全体像

その結果、以下のことが明らかとなった。

- これからの複雑で不確かな時代を生きるために必要なコンピテンシー、学習指導要領で育成を目指す資質・能力、本校学校教育目標を基に、小学校教育の中核にある授業において目指す児童の姿として、「**社会に変革を起こす子ども**」の姿を位置付け、その具体を明らかにした。その結果、カリキュラムシートの運用等の情報活用の視点から行うカリキュラムマネジメントを実践することができた。
- 全教科等において「**社会に変革を起こす子ども**」の姿を想定した。そして、授業の中でその姿が現れるように、情報活用の視点を基にしたICT活用による学習指導の工夫を構想し、授業実践を行った。実践を踏まえて、目指す「**社会に変革を起こす子ども**」の姿と、構想した学習指導の工夫を再考した。全教科等においてこのような授業実践と再考とを繰り返すことで、「**社会に変革を起こす子ども**」の姿が現れるための要因を明らかにすることができた。さらに「**社会に変革を起こす子ども**」による、考えを伝えられた児童の効果やその要因を見取ることができた。
- 「**社会に変革を起こす子ども**」から考えを伝えられた児童は、多様な情報を活用しながら教科等の問題解決を推進することによって、その児童自身が「**社会に変革を起こす子ども**」になるという様子が見られた。これらの姿は、小学校教育の中で他者と協働的に学ぶ重要性を示している。今後は、「**社会に変革を起こす子ども**」の育成に向け、教科等の問題解決的な学習における他者との関わりについてのICT活用による学習指導の工夫を、実践を通して明らかにする必要がある。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社、2017年。
- ・高木展郎『変わる学力、変える授業。』三省堂、2015年。
- ・田村知子、村川雅弘、吉富芳正、西岡加名恵『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年。
- ・奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』、東洋館出版社、2017年。
- ・田村学『深い学び』、東洋館出版社、2018年。
- ・OECD『Education 2030』2018年。
- ・群馬県教育委員会『はばたく群馬の指導プランⅡ』、2019年8月。